

令和6年度

自己評価
結果報告書

学校法人 松栄学園

ふくはま幼稚園

経営理念・教育理念・教育方針・教育目標

《学校法人 松栄学園》

【経営理念】

- *園児と保護者・教職員に喜びを与え、笑顔あふれる地域社会をめざす。

【教育理念】

- *遊びを中心とした楽しい集団生活の中で、豊かな体験を通して、21世紀を生き抜く力を育て、豊かな心・健やかな体・優れた知性を備えた、バランスのとれた人間の育成に努める。

【教育方針】

- *ゆたかな心・すこやかな体・すぐれた知性の、バランスのとれた子どもを育てる。

【教育目標】

*各学年の教育目標

《年少組・教育目標》

- *喜んで登園して、友達と遊べるようになる。
- *集団生活には、「きまり」があることを知る。
- *身の回りのことが、できるようになる。
- *身近な人と関わって、愛情や信頼感をもつ。
- *道具の正しい使い方を覚える。

《年中組・教育目標》

- *周りの環境や友達と関わることを通して、好奇心や探求心を抱く。
- *基本的生活習慣が身について、「きまり」を守れるようになる。
- *身近な自然に触れて、動植物に興味や関心をもつ。
- *相手の話を注意して聞こうとしたり、経験したことを相手にわかるように話す。
- *美しいものを見て、美しいと感じる。(新入園児は、「年少組の教育目標」も含める。)

《年長組・教育目標》

- *年長の自覚をもつ。
- *物事に進んで取り組む意欲と自信をもつ。
- *文字や数量に対する感覚や、その記号的意味に気づく。
- *人の話を聞いて、理解して、(短くとも)まとまりのある話をする。
- *自分の考えや感じを言葉や体を使って表現する。
- *友達と役割を決めて、協力し して遊ぶ。

1) 保育の計画性	園の教育理念 各学年の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、朝礼の時に教育理念を復唱し、達成する姿をイメージしながら毎日の保育に取り組んでいる ・日直が1分間スピーチを行ない、保育に役立つ情報を共有している
	指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に一年間の制作計画案を作成し、季節に合った制作を行なうことで四季の移り変わりを感じられるよう導いている ・その時の子どもの様子や出来ることを見ながら計画案を見直している ・月に一度、保育カリキュラムを作成し、5領域に沿った目標を立てて、保育の中で取り組んでいる ・学年主任を中心に学年ごとに話し合いを重ねて、園児が主体的に参加できる活動を考える ・担任は保育日誌で週案を作成し、毎日反省記録を残している。日誌を見返して、次の週案作成や保育内容の変更などに生かしている ・保育日誌は、週に1度、園長・主任が見て、そのクラスの様子や担任が感じたこと、反省を共有している
	反省	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコロナ禍で得た有効な形は残しつつ、子ども達の成長にあった活動内容や進め方を見直す。
2) 保育の在り方 子どもへの対応	安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの置き去り事故を踏まえて、再度、安全管理マニュアルを職員で見直し、修正を加えて、そのやり方を徹底する ・車内置き去り防止安全装置を全園バスに設置。 ・令和5年に、バスの運転手と園長・職員代表2名が保健福祉復興財団主催の「バス送迎における安全管理徹底のための研修」を受講した ・園内に危険な箇所がないか、遊具は安全か定期的（月2回）に点検を行なっている
	健康・衛生面	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の体調には常に気を配り体調が悪そうな園児には検温をし、保護者に連絡を入れるようにしている ・ケガが出た際は、すみやかに保護者に連絡をして医療機関に連れていく旨を伝え、園長または、主任が連れていく。保護者に一緒に病院に来てもらい、受診結果を聞いてもらうようにしている、もしくは、お迎えの際に保護者に伝える ・終礼で、ケガが出たことを伝えて、職員間で情報を共有する ・毎朝、準備体操・学年ごとにマラソンを行なって、体力作りを図る ・熱中症対策で、日よけ・ミスト装置の設置 好きな遊びの時間には、お茶のみタイムを設け、放送

		で呼びかけている。
	コロナ渦における 対応の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・五類に移行したことにより、コロナ前の活動内容に戻したり、変更してよかったところは引き続き取り入れた ・教室内の消毒・次亜塩素酸水噴霧器の使用 ・バス・遊具の消毒 ・五類に移行したことにより、給食時のパーテーションの使用を廃止 ・行事に関して、保護者の入場の人数制限を緩和 ・入園式・卒園式・運動会・生活発表会のオンラインライブ配信の実施 ・コロナに限らず、感染状況等は、保健メールとして保護者に配信している
	指導とかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の導入などで、手遊び・紙芝居などを効果的に使い、子どもの興味を引きつける ・園児のことについて常に職員間で話したり相談したりして、よりよい配慮や援助が行なえるようにしている ・園児一人ひとりの個性や性格を把握できるよう日々の様子を観察し、ちょっとした様子の変化に すぐに気づけるようにする。 ・園児一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、信頼関係を築く ・遊びを中心とした集団生活の中で、豊かな体験を通して、ゆたかな心・すこやかな体・すぐれた知性のバランスのとれた子どもを育てる
	反省	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の見回りや危険個所がないかの点検の回数を増やして、未然にケガ・事故防止に努める
3) 教師としての 資質と能力		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いに注意して、丁寧な話し方を心がける ・身だしなみに十分注意して、良識のある社会人として行動できるよう心がける ・ふくはま幼稚園の職員として、職員全員がチームの一員であることを意識している。 ・幼稚園教諭としての専門知識や保育のスキル向上のため学園全体での研修を行なっている
4) 保護者への対応	保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・おたより帳のおたより欄で、保護者とのやり取りを行なっており、延長保育の申し込みや送迎時の変更など見落としのないようにし、必ず「確認しました」の返事を入れるようにしている ・特記すべきことは、その日のうちに、様子をお迎えの時に伝えたり、バス利用の園児の保護者には、電話をして伝えるようにしている ・病気で欠席したご家庭には、必ず担任が電話をし、様子を聞くようにしている

		<ul style="list-style-type: none"> ・各月、クラスだよりを配布し、クラスでの子どもたちの活動の様子を伝えている ・保護者からの相談に真摯に向き合い、話し合いの場を設けながら良い方向へ解決策を見つける ・ホームページやInstagramなどのSNSで、園での様子を配信している ・月に一度おたより帳を預かり、担任が子どもへのがんばったことなどをお手紙形式で記入したものを貼る子どもも読めるように、平仮名で書いてあるので喜ばれている
	苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からご意見や不安事をいただいた時は、まずはしっかりと話を聞き、すぐに園長に報告する 内容によっては、職員全体で話し合い、対応・改善できる所は改善して、対処している 職員間でも内容を共有し改善に努める ・園に対して今までのいろいろなことに対しての不透明さに不信感を持っているとお声をいただいた ・新制度に伴う重要事項説明書、合わせて同意書の配布を失念し、そのことでご意見をいただき理事長同席の話し合いの場を設けた
	反省	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からのご意見を真摯に受け止め、より早い対応が必要だったが、市役所など各方面に相談していた為対応が遅くなった <p>きちんと謝罪をし、経過説明をして信頼回復ができるよう努めていく</p>
5) 研修と研究		<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質を上げるために研究保育を行なっている その月の指導目標や学園で取り組んでいる「考えるあそび」「文字あそび」をベースに教材づくりや導入を実践している その反省会では各職員からの助言や意見を出し合っており、経験年数がそれぞれ違いますがお互いに刺激をうけ、モチベーションや保育の向上に繋がっている ・コロナ渦から引き続き、オンラインではあったが、年間を通して、定期的に外部の講師の研修を受けている。 ディスカッションの時間もあり、意見交換を行なっている ・保護者に対しても、外部講師によるオンライン研修を実施している
	反省	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな研修に参加したり、情報を得たりして、有効な指導方法の習得に努める

今後取り組むべき課題・反省

1) 保育の計画性について	<ul style="list-style-type: none">・月に一度の職員会議をより充実したものにできるよう予定表の見直しをし、時間を決めてより効率よく取り組む・五類に移行したが、コロナ禍で変更し良かったところは引き続き取り入れ、そこから更に内容を見直し、最善の案で進めていく
2) 保育のあり方 子どもへの対応について	<ul style="list-style-type: none">・子ども一人ひとりの健康状態を把握して、日ごろの様子から少しの体調の変化にも気づけるようにする・保護者の連絡先を必ず控えておき、変更が生じた場合には新しい連絡先を聞いておく・現在の子ども達の成長の様子を踏まえながら、各学年の保育を柔軟に進めることができるようにする・援助が必要な園児に対して、適切な支援ができるように、発達支援の研修で知識を得たり、実践した内容を職員間で共有する
3) 教師としての資質と 能力について	<ul style="list-style-type: none">・幼稚園教諭としての意識を高くもって、立ち振る舞いに留意する・園の教育理念を理解したうえで、日々の保育に臨む・不適切保育に関しての研修をうけ、職員間で情報を共有し、全園児が心身ともに健やかに過ごせる環境づくりを心がける
4) 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none">・保護者の意見に真摯に向き合って、職員全員で対応する・SNSを上手に利用して、子どもの園での様子を発信していく・重要事項説明書の取り扱いに十分留意する
5) 研修と研究	<ul style="list-style-type: none">・研修に参加して、理解を深めていく・個人で参加できる新たな研修に、積極的に参加して、キャリアアップをめざす。

財務管理について

監査法人の公認会計士により、適正に、運営されていると認められている。